

夫とのコミュニケーションと 関心事への理解度

「第3章 3. 母親の対人関係の悩み」(75ページ参照)では、母親の人間関係を扱ったが、ここでは、最も身近な夫とのコミュニケーションについて分析したい。

夫と「よく」+「まあまあ」話し合っているのは4分の3

図3-7は夫とどの程度話し合っているかを聞いた結果である。24.8%が「よく話し合う」と答え、「まあまあ話し合う」をあわせると75.6%になる。夫婦の会話が少なくなることが問題にされがちな昨今であるが、今回の調査結果を見るかぎり、それほど深刻な状況ではないようだ。

「よく」+「まあまあ」話し合っていると答えた母親に話し合ったときにどのように感じるかを聞いたのが、外側のグラフである。「ほかの人に話したほうが共感してくれる」と否定的な感想を持つ人は10.6%と少なく、大多数は「参考になる意見を言ってもらえて嬉しい」「話を聞いてくれて嬉しい」のどちらかに属している。当然の結果ではあるが、ほとんどの母親にとって、夫と話をすることはプラスの意味をもっている。

では、「ぜんぜん」+「あまり」話し合わない夫婦はどうなっているのだろうか。両者はあわせると24.4%いる。なぜ話さないのか理由をたずねると約半数が「話し合う時間がない」と答えた。これは、夫の仕事が忙しく、物理的に時間がとれないということがまず第一に予想される。しかし、それだけでなく妻のほうも子育てに追われ、二人でゆっくり話す機会が作れないことも大きな原因になっているのではないだろうか。実際に今回の調査結果でも、子どもが小さいほどその傾向が強く表れている。「ぜんぜん」+「あまり」話し合わないと答えた母親を

学年別にみると、年少児の母親の60.9%が「時間がない」と答えているのに対し、小2生の母親は45.1%に減少している。

話さない理由のもう一つに「配偶者にとって興味がない内容だから」(39.4%)がある。一見、夫と心理的に離れているようにみえるがこう答えた人たちは、趣味や仕事を通じて夫以外にも普段話し相手となる人が存在し、多様な人間関係のなかで生活している可能性がある。

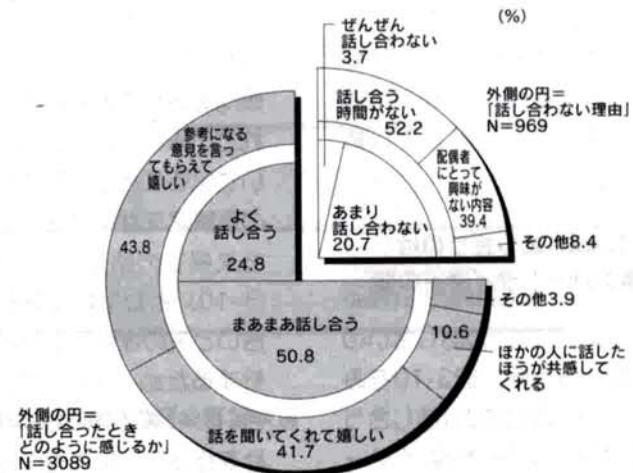
子どもが小学校へ通いはじめると、 やや話し合う傾向が強まる

学年別の比較を示したのが図3-8である。極端な差は出ていないが他の学年と比較すると、小1生の母親は夫と話し合っている人がやや多い。とくに年長児で「よく」+「まあまあ」話し合うが73.7%なのに対し、小1生は77.5%と微増している。さらに、「話を聞いてくれたときの感じ方」を学年ごとに追っていくと(図3-9)、小1生で「参考になる意見を言ってもらえて嬉しい」が増えていることがわかる。とくに年長児と比較すると10%以上増加している。子どもが小学校に上がることで、何かと夫婦で話し合っ決めていくことが多くなり、そこで夫が相談にのったり、アドバイスをしていることが背景にあるのかもしれない。ただし、それも子どもが小1生のうちだけで、小2生になると、また以前の状態に戻っていく傾向がみられる。

「話し合う時間がない」第1子の母親、 「配偶者は興味がない」第2子以降の母親

今育てている子どもが初めての子か2人目、3人目かによっても状況は違ってくる。「よく話し合う」+「まあまあ話し合う」の数値には、両者の差がなかったが、話し合わない

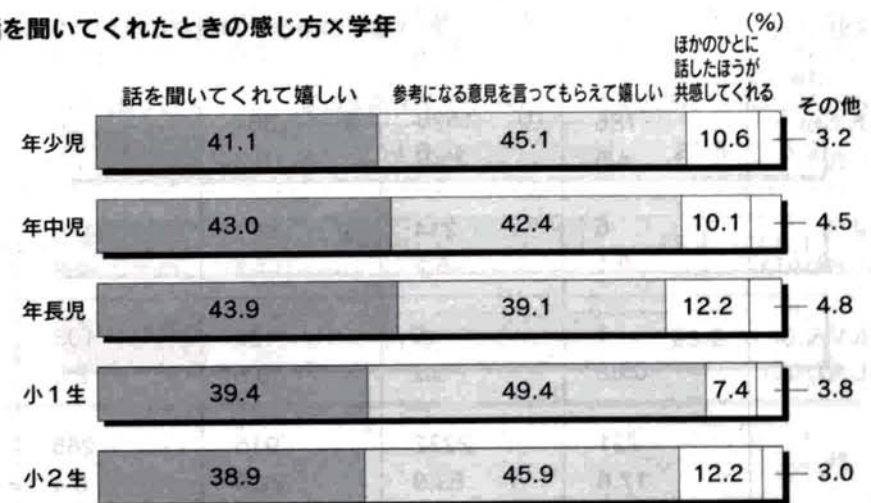
●図3-7 夫と話し合うか



●図3-8 夫婦での話し合い×学年



●図3-9 話を聞いてくれたときの感じ方×学年



理由では、「時間がない」第1子56.5%、第2子以降46.9%と10%近い差がでた。ここだけみると、第1子の母親のほうが、時間的余裕がないようにみえるが、「配偶者は興味がない」は第1子36.2%、第2子以降43.4%と逆転していた。

●夫と「よく」+「まあまあ」話し合うのは
専業主婦>常勤者>パートタイマーの順

では、就業状況によって夫との話し合いの傾向は違ってくるのだろうか。図3-10をみるとわかるが、「よく」+「まあまあ」話し合うのは専業主婦77.1%、パートタイマー72.3%、常勤者74.0%となり、専業主婦とパートタイマーの間で4.8%の差がでた。話し合わない理由をみると(図3-11)、「時間がない」が専業主婦55.0%、パートタイマー45.6%、常勤者55.0%となっている。生活時間のちがう専業主婦と常勤者に差がなく、一見似ているように見える専業主婦とパートタイマーの差が10%近く出ている。

●関心事への夫の理解度

夫が関心事や悩みなど「現在のあなた自身

を理解してくれていると思うか」を聞いた結果の全体値が図3-12である。「夫婦で話し合うか」と聞いた前ページの図3-7とほぼ同じ傾向をみせており、夫婦での話し合いが行われていることが夫の理解度と直接的に結びついていることが予想された。また、関心事への理解度を就業状況別にみた場合(図3-13)も夫婦での話し合い×母親の就業状況(図3-10)と似た傾向をみせた。夫婦での話し合いと夫の理解度の関係をもう少し詳しく分析するため、表3-2のように「夫婦での話し合い」×「夫の関心事への理解度」のクロス集計を行った。全体的にみて、最も数値が高いのは①「まあまあ話し合う」×「まあまあ理解している」36.9%、②「よく話し合う」×「よく理解している」13.0%、③「よく話し合う」×「まあまあ理解している」11.6%で、上位3位をあわせると、61.5%となり、話し合っている場合は理解度も高いことがわかる。しかし、④「あまり話し合わない」×「あまり理解していない」11.3%、⑤「まあまあ話し合う」×「あまり理解していない」9.3%が第4位、第5位に位置していることも注目しておきたい。

●表3-2 夫婦での話し合い×夫の関心事への理解度

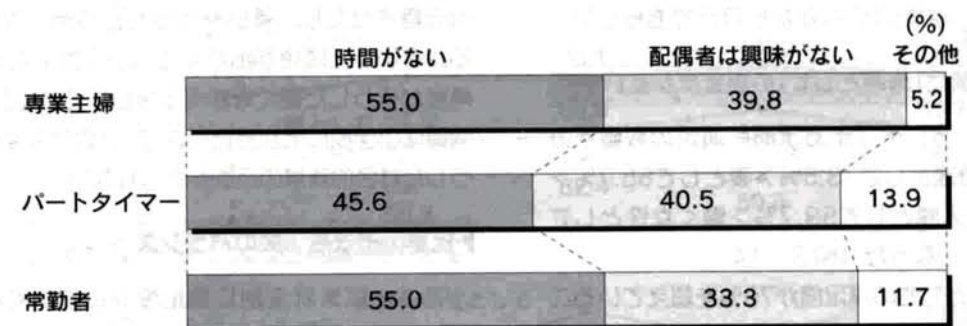
上段=実数 下段=%

	よく理解している	まあまあ理解している	あまり理解していない	ぜんぜん理解していない	横計
よく話し合う	② 538 13.0	③ 481 11.6	26 0.6	2 0.04	1047 25.2
まあまあ話し合う	186 4.5	① 1528 36.9	⑤ 387 9.3	45 1.1	2146 51.8
あまり話し合わない	6 0.1	214 5.2	④ 467 11.3	115 2.8	802 19.4
ぜんぜん話し合わない	1 0.02	9 0.2	35 0.8	103 2.5	148 3.5
縦計	731 17.6	2232 53.9	915 22.0	265 6.4	4143 99.9

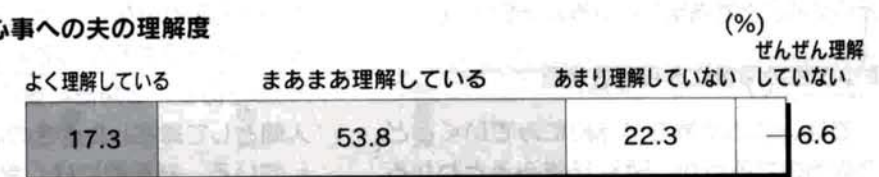
●図3-10 夫婦での話し合い×母親の就業状況



●図3-11 話し合わない理由×母親の就業状況



●図3-12 関心事への夫の理解度



●図3-13 関心事への夫の理解度×母親の就業状況

